

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
理事長	山下 静也
副病院長 兼地域医療サービスセンター長	永井 義幸
部長兼診療局長補佐 兼心臓センター副センター長	武田 吉弘
部長兼りんくうウェルネスケア研究センター長 兼健康管理センター副センター長	増田 大作
医 長	村木 良輔
医 長	義間 昌平
医 員	小島 貴行 (9月退職)
医 員	阿部 誠
医 員	岡田 健助
医 員	宮脇 大 (3月入職)

—概要—

大阪泉州地域に存在する当院は、救命救急センター、母子医療センター、感染症センターなどの高度医療センターが集積する三次救急医療センターであると同時に、地域の多くのプライマリケア医療と連携して高齢化・過疎化のすすむ当地域における中核病院としての機能を有している。このことから、循環器疾患の専門治療だけではなく、他科をふくめた総合的で幅広い領域の疾患、またこの地域における心血管疾患リスクの増加に対しても対応する必要がある。日々、地域の自治体機関やプライマリケア医、さらに各センターや他科からも救急、重症、特殊病態の症例を紹介頂き協調しながら診療にあたっている。

—実績—

心臓カテーテル検査	507件
冠動脈カテーテル治療	218件
急性冠症候群	151件
急性心筋梗塞	105件
ペースメーカー	39件
リードレスペースメーカー	3件
植え込み型除細動器(ICD)	5件
両室ペースメーカー(CRT-P)	4件
除細動機能付両室ペースメーカー(CRT-D)	5件
心筋焼灼術	16件
下肢動脈カテーテル治療	19件
心臓CT検査	413件
経胸壁心臓エコー検査	5,681件
経食道心臓エコー検査	48件
心臓核医学検査	228件
血管内超音波検査	265件
英文原著	38件
和文原著、総説、著書	29件
国際学会報告	5件
国内学会報告	50件
実施中の臨床研究	17件

(2020/1/1~2020/12/31)

—今年度の成果と反省点—

2020年初より急激に感染の広まったCOVID-19によって、経験したことのない診療状況に陥った。救急を含めた受診患者が十分な情報のない得体の知れない感染症に罹患している可能性があるという高いストレス状態にあったが、感染症センターとの連携および多くの文献の学習によって感染予防対策を適切に行った。その結果、増減を繰り返すCOVID-19の感染によって受診患者への対応や検査治療の進捗に増減は見られたものの、ほぼ例年どおり当院が求められる循環器診療を行うことにより、COVID-19感染パンデミック下における救急医療・地域医療に貢献したと考えている。

COVID19蔓延に加え、三次救急重症循環器疾患に対して、高度画像診断機器(320列CT:2台、80列CT:1台、3Tと1.5TのMRI、放射線アイントープ)を多数保有している当院の利点を最大に生かし、速やかに診断し、治療に結びつけることができた。また緊急カテーテル検査及び治療に関してもより迅速に適切な治療を進めることができた。心房細動含む不整脈アブレーションも積極的にを行い、症例数も増加させ、地域医療に貢献した。また、不整脈に対する植込みデバイスに関し、従来から行っているペースメーカーの他、植込み型除細動器、心臓再同期ペースメーカーなどのデバイスに習熟し、適切に植込みを行った。また当院主任の研究を含め臨床研究を継続して実施し、COVID-19で開催が減少した状況にはあるが国内、国外の学会に臨床研究に関する報告を多数行うことができた。さらに、冠動脈疾患のリスク因子である脂質異常について自治体の健康診断や地域プライマリケア医から家族性高コレステロール血症を中心に御紹介いただき、適切な診断及び治療介入に努め地域医療に貢献した。

—来年度への抱負—

昨年同様、COVID-19に対する感染予防対策を十分に行い、重症三次救急例や病診連携医からの紹介例に適切に対応し、地域医療に貢献したい。加えて、臨床研究を継続し、医療の発展に尽力したい。